



Vol. 39 No. 1
2022. Jun



秋田県作業療法士会 印刷 川嶋印刷株式会社

発行 一般社団法人 秋田県作業療法士会 ホームページ <http://akita-ot.jp>

会長 高橋 敏弘

編集 一般社団法人 秋田県作業療法士会広報部
〒018-5421 秋田県鹿角市十和田大湯字湯ノ岱 16-2
大湯リハビリ温泉病院 作業療法室・児玉 達則
TEL 0186-37-3511 FAX 0186-37-3483

E-mail : akita_ot_kouhou@akita-ot.sakura.ne.jp

事務局 〒010-0041 秋田県秋田市広面字屋敷田 25-2 セジュールエスト 105 号
TEL/FAX 018-837-0552

E-mail akita_ot@akita-ot.jp

広報部の
メールアドレスが
変更になりました!!



巻頭言 改めて協会について考えましょう

会長 高橋 敏弘

会員の皆様には平素より、秋田県作業療法士協会の活動にご協力、ご支援を賜りまして感謝申し上げます。

現在、日本作業療法士協会は「協会員＝士会員」の実現に向けて準備を進めています。養成校が増え作業療法士の有資格者は毎年増加していますが、残念ながらOT協会への入会率は低く退会者も増えている現状にあります。この紙面を読んでいる皆様は当然協会員であり県士会員なので問題はないと思うのですが改めて協会とは何かを考えてみたいと思います。

職能団体とは法律や医療などの専門的資格を持つ専門職従事者らが、自己の専門性の維持・向上や、専門職としての待遇や利益を保持・改善するための組織であり、同時に、研究発表会、講演会、親睦会の開催や、会報、広報誌などの発行を通して、会員同士の交流などの役目も果たす機関でもあります。日本作業療法士協会は、作業療法士の質の向上、社会的地位の向上、職域の拡大、作業療法の有効活用を促進するために活動しています。

具体的には学会、研修会（専門領域、新人向け、重点課題など）の開催、作業療法の啓発など広く作業療法を知ってもらう活動、日本災害リハビリテーション支援協会（JRAT）への参画を通じた災害時の支援体制整備などを行っています。

私たち作業療法士の役割は作業療法を必要とする人たちに、常に質の高い支援を提供することにあります。国家資格を付与された者として、わたしたち作業療法士にあたえられた使命です。しかしどんなに優秀な作業療法士であっても個人の力だけでは作業療法の知識と技術を更新し、社会的地位の向上を目指すことは困難です。より多くの作業療法士が協会に所属し、会員として協会の活動を共に担い、協会の活動を活発にすることは、作業療法士だけでなく、作業療法を必要とする人たちの取り巻く環境をより良くすることに繋がります。生涯教育の研修会や学会への参加・発表を行い自分自身の資質向上を図りながら常に問題意識を持ち、作業療法士の職域拡大や待遇の向上にもつながって行く必要があります。また作業療法士協会だけでなく関連する職能団体や学会と連携、協力して国や自治体に要望を出していくこともとても重要な役割です。

診療報酬や介護報酬も今後は大きく上がるとは考えにくく、作業療法士の数は増え続けますが利用者から見た作業療法の質も問われています。今後も作業療法士が必要とされ社会的な地位を維持して行くためには様々な問題や課題を出し合いそれを皆で考え解決していく必要があります。そのための協会や県士会なのです。

もし周りに会費が高いから、協会に入るメリットが無いからと言って協会に未入会の作業療法士がいたら今一度協会の役割を一緒に考え入会を勧めて下さい。作業療法士を取り巻く情勢は今後一層厳しくなるのは明らかです。10年、20年、30年先も作業療法士として働いていけるように協会、県士会に一人一人の力を結集しましょう。

最後に県士会会員の皆様のますますのご活躍をお祈り申し上げます。ありがとうございました。



印象記① 秋田県運転と作業療法委員会 主催の研修会に参加して

秋田赤十字病院 リハビリテーション科 齊藤行篤

令和4年2月12日に、秋田県運転と作業療法委員会主催の研修会に参加しました。運転支援に関する評価の紹介や、各施設での運転支援の状況紹介、事例報告を通して、「自動車運転継続・再開のニーズに、秋田県の作業療法士がどのように関わっていくか」というテーマについて考える良い機会をいただきました。特に、率先して運転免許センター・公安委員会と連携してくださっている委員会の先生方や、教習所と連携した実車評価を行った先生方の情報は、自病院での例がなく、とても勉強になりました。業界を超えた連携には高いハードルを感じていましたが、教習所側の事情も考慮して事務員や顧問弁護士など病院組織全体で取り組まれており、同意書の準備や対象者への説明など、丁寧に準備されている様子には感銘を受けました。

また、研修会終了後、運転支援に関わっている施設の連携会議も行われました。ドライビングシミュレータを導入する予定の施設も増えてきている様子で、運転支援体制の幅が広がってきており、その中で自病院の役割について考えるきっかけをいただきました。当院での対象者は回復期リハビリテーション病院へ転院することが多いため、運転支援を開始する前段階としてADL・IADLの自立を目標とした治療を行うことが求められていると感じました。転院時の申し送りの内容も引き続き統一化していく必要があります。委員会で作製していただいた申し送り書を参考に、当院部門内でも検討を重ねていく所存です。

秋田県は他県に比べて人口密度が低く、公共交通機関が充実しているとは言い難いと思います。今まで自動車運転に依存した生活を送っていた方々に、運転に代わる方法を提案しにくいことが多いと感じています。一方で、今年度から70歳以上の免許更新制度が一部改訂され、高齢者講習の内容が変わり、安全運転サポート車限定免許の新設などもなされており、より安全な自動車社会が目指されています。

対象者のニーズを達成する安全な提案ができるように、日本高次脳機能障害学会のフローチ

ヤートや JAOT のパンフレットなどを参考に、年々変わる法制度へも関心を持って、対象者と関わっていきたいと思います。



印象記② 運転支援に対する当院の取り組み

秋田労災病院 中央リハビリテーション部 作業療法士 鈴木健一

近年、高齢運転免許保有者の増加や認知症、脳卒中などの病気を持つ運転者による交通事故が大きな問題となっています。2014年(平成26年)6月に道路交通法が改正され、脳血管障害は「自動車等の安全な運転に支障をおよぼすおそれがあり、運転免許の取り消しまたは停止の理由となる病気(一定の病気等)」に該当することが明示され、運転免許の更新には健康状態の正確な報告が義務となり、虚偽の報告をすると罰則の対象となりました。このような背景から作業療法士が高齢者や障害のある方を適切に評価し、自動車運転に関する再教育を行う運転支援が重要視され、日本作業療法士協会は、作業療法(士)による支援を推進することを目的として2016年に運転と作業療法委員会を立ち上げています。また秋田県士会の方でも、県内の各病院や施設の方々と連絡会議や自動車運転支援の現状などについて情報共有を行い、今後の運転支援に活かす取り組みを行っています。

脳血管障害者の運転再開への一般的な流れとしては、評価・診断書作成、免許センターへの相談、適性検査の実施、そして最終的に公安委員会が運転免許更新の可否を決定します。私たちは主治医の診断書作成のための様々な評価を行うことが主な役割となります。神経心理学的検査はもちろん、ドライブシミュレータを用いての評価、また自動車教習所と連携して実車評価を行っている施設もあります。当院リハビリテーション科での運転支援については、実績としての数は少ないのですが、脳血管障害の患者様の病態や要望を聞き取り、運転支援を検討しています。院内でのドライブシミュレータを使っての評価ができないことや実車評価ができないことから関係機関と協力しながら運転再開への支援を行っています。

復職される方は職場への移手段として、また高齢者の方は買い物や通院などそれぞれのライフステージで目的は違ってきますが、必要とする時に思うように移動ができるということは、その人の生活の豊かさを左右します。また、秋田という地域性を考えると交通不便地域があり、独居や高齢の方が多く常に車を用意してくれる協力者がいるとは限りません。できる限り自分で車を運転したいと考えるのは当然のことであり、脳血管障害者や高齢者の運転支援の必要性は増してくると思います。患者様から自動車運転に関しての相談や問い合わせがあれば、少しでもその支援ができるよう知識を深めるとともに、今後も研修会等に参加し、各施設のみなさんと情報共有、協力して活動していければと思っています。





職場紹介

社会医療法人正和会 介護老人保健施設湖東老健

作業療法士 伊藤 睦子

社会医療法人正和会は潟上市を中心に、小玉医院、南秋田整形外科、介護老人保健施設ほのぼの苑などの医院や施設を男鹿南秋地区から秋田市内にかけて展開しており、社会福祉法人正和会や関連会社も合わせると 56 事業所で医療・介護・福祉サービスの提供を行っています。

令和 4 年 2 月には社会医療法人の認可を受け、24 時間対応の訪問看護・介護や配食サービスなど地域のニーズに応えられるサービスを提供し、また急性期医療から看取りまで幅広い対応をすることで社会的役割を果たせるように取り組んでおります。

その中で五城目地区にあるのが平成 16 年 3 月 30 日に開設した介護老人保健施設湖東老健です。従来型多床室 64 床、ユニット型 12 床 3 ユニットの 36 床からなり、入所定員は短期入所を含めて 100 名、通所リハは 30 名定員です。また併設機関として湖東居宅介護支援事業所、湖東快晴クリニックがあります。

朝市通りから徒歩数分ほどに位置し、目の前を馬場目川が悠々と流れ、川沿いの遊歩道では地域の方々が散歩をしているような、のどかで景観のよい立地となっています。

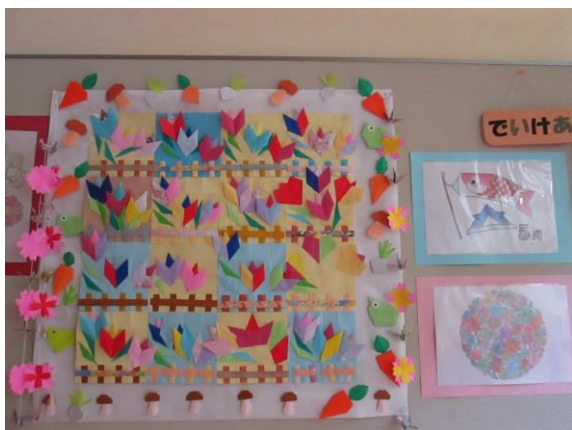
施設は平屋建てでバスケットボールコート 13 面分の広さがあり、吹き抜けの高い天井と幅 290 cm の廊下で明るく開放的な造りになっています。また廊下は長い所で約 100m の距離があり、回廊型の施設なのでゆっくりと散歩をされている利用者さんも多くおられます（職員は移動距離が多くなりますが…）。

その他設備としては、パワーリハビリテーションのマシンが 6 機種設置されています。また外国人労働者の受け入れや介護ロボットの導入など新しいことにもどんどん挑戦しています。

リハビリテーションスタッフは作業療法士 3 名、理学療法士 4 名、言語聴覚士 1 名の計 8 名で、入所、通所、訪問のリハビリテーション業務に従事しています。入所部門では他職種と連携しながら



ら家での生活を意識した関わりによって在宅復帰に力を入れており、また在宅復帰後の通所リハでは1日利用と短時間利用のサービス提供を選択していただくことで利用者さんのご希望に沿った対応ができるようにしています。入所での在宅復帰から短期入所・通所リハ・訪問リハと継続してフォローしていくことで在宅生活を支援し、地域のリハビリテーションニーズに応えることができるように取り組んでいます。また、経験も年齢も異なる個性豊かな3職種が揃っているため、利用者さんの特性に合わせたリハビリテーションを提供できるのが強みです。



2022 年度一般社団法人日本作業療法士協会

「特別表彰」を受賞して

秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻作業療法学講座 石川隆志

この度、秋田県作業療法士会会長の高橋敏弘先生をはじめ県士会理事役員の皆様に、日本作業療法士協会の「特別表彰」候補者として推薦いただいたところ、2022年3月29日付で一般社団法人日本作業療法士協会「特別表彰」決定の通知を拝受しました。

2004年に日本作業療法士協会の成果検討委員会の委員に就任以来、学術部の活動や生活行為向上マネジメント研究事業等に関わらせていただき、杉原素子前協会長、中村春基現会長はじめ理事役員の先生方のご指導やご支援を得て、学術部長や学術委員長役割を何とか果たすことができました。一緒に協会活動を担っていただいた全国の作業療法士の先輩、仲間にも支えられました。特に、成果検討委員会に誘っていただいた故森山早苗先生、当時の学術部長の故浅井憲義先生、担当理事の小林正義先生には大変お世話になり感謝しております。また、協会活動について保健学科・保健学専攻の上司や同僚の理解が得られたこと、秋田県作業療法士会の理事役員、会員の皆様のご協力を得られたことも大きな支えとなりました。Covid-19感染拡大のため残念ながらオンデマンド開催となりましたが、2020年9月の第54回日本作業療法学会

(新潟学会)では、秋田県から多くの演題登録と参加をいただきました。作業療法士協会会員の学会参加比率は開催地新潟と並んで全国1位となり、秋田県士会の皆様の温かさと支援の力強さを実感しました。

作業療法士協会の活動を通じた出会いと経験は私の大きな財産になっています。紙面上で大変恐縮ですが、お世話になったすべての皆様に心より感謝申し上げ、受賞の挨拶とさせていただきます。

特別表彰とは「日本作業療法士協会もしくはわが国の作業療法の発展に特筆すべき業績をもって著しく寄与した者の表彰」であり、都道府県作業療法士会からの推薦を受け、表彰審査会にて厳正な審査を経て理事会で審議・決定されております。

詳細は「日本作業療法士協会誌」にて掲載されると思われまますのでご覧ください。

この度の受賞を心から祝福いたします。おめでとうございます。

広報誌編集部長 児玉 達則



広報部から

- ・研修会情報をお知らせしております。

余白を有効活用して県内で開催される講習会・研修会情報を公開しております。院内での小さな勉強会でも構いません。「他の病院から参加者を募り、実りある研修にしたい」「情報交換をしてお互いの技術や知識を高めたい」その想いが秋田の作業療法を発展させます。みんなで秋田を盛り上げていきましょう。情報をお待ちしております。

宛先はこちら→→ akita_ot_kouhou@akita-ot.sakura.ne.jp

広報部の
メールアドレスが
変更になりました!!

新企画案内『みんなで語るべ～日々の楽しみ方～』

- ・内容：日々の中での楽しみ方や仕事の一場面、最近やってみた事等。
- ・文字数：140字～160字 ・写真：1枚
- ・施設名のみ掲載させて頂き、原稿執筆者の名前(イニシャル含む)は掲載しません。1回の発行につき、2～3名にご協力頂きたいと思っております。



みんなと語るべ ～日々の楽しみ方～

語り手:あをによしリハビリ脳神経外科クリニック

月曜日は休みなので最近毎週のように下の娘と大森山動物園に通っています。年パスは格安ですし、園内を散策しているとあっという間に3～4km歩けるので軽い運動にちょうどいいので平日動物園はおススメです！娘のマイブームは象のリリーへの餌やりなんですけど、最近体調が悪く餌やりはお休み中…。だから彼女は少し寂しいようです。



新年度に入りリハビリテーション科のスタッフが増員しました！それに伴いリハ室内の密を避けるため、個室を整備中です。元々倉庫として使われ、数ヶ月前まで段ボールが積み上がっていましたが、家具やベッドが入りすっかり部屋らしくなりました。トレーニングの場が増え、落ち着いてリハビリができると患者さんにも好評です。

おうち時間で「カリンバ」という楽器を始めました。アフリカの民族楽器で、「サムピアノ」「ハンドオルゴール」とも呼ばれています。某ゲームにも登場し、話題となっていました。名前の通りオルゴールのような音色で癒されます。ピアノとは鍵盤の配列が異なり、思いのほか頭を使います。最近放置気味なので、何か1曲形にしたいなと思います。



編集後記

寒かった冬が終わり春になりましたが、皆さんいかがお過ごしでしょうか。私は季節の中で春が一番好きです。街中が桜によってピンク色に染まるのは本当に綺麗です。さて、私は今年の春は久しぶりに映画館に映画を見に行きました。見に行った映画は「Free!」という京都アニメーション制作の水泳アニメです。今回の映画にてシリーズ完結ということで楽しみな反面、複雑な心境で鑑賞しました。映画が始まると水の中の映像など映画の世界感に入り込んでしまい、2時間があっという間に過ぎていました。シリーズが終わるのは寂しいことですが、これから新たなアニメなどに会う機会になると思い前向きに考えていきたいと思います。

最後に、今年は桜の開花も例年よりも早く、ゆっくと花見をすることができませんでしたが、来年こそは仲のいい仲間と花見ができればいいなと思います。(yui)



(一社)日本義肢協会登録
東北 101号



株式会社

千秋義肢製作所

~~~~~  
義手・義足・装具・車椅子  
リハビリ用品  
~~~~~

秋田市新屋豊町 1-22

TEL 018-823-3380

FAX 018-862-5126

<http://www.sensyugishi.co.jp>

SAKAImed

立位移動補助具 アクティモ NR

actimoNR

早期活動を促す

新しいリハビリテーション

脳卒中発症後早期の方でも、下肢・体幹を支持保持して安全に立位姿勢を保てる設計で、早期からの立位・移動リハビリテーションに最適です。



お問い合わせ先

酒井医療株式会社

www.sakaimed.co.jp

東北支店 盛岡営業所
(青森・秋田・岩手エリア担当)
TEL : 019-656-5336

東北支店 仙台営業所
(宮城・山形エリア担当)
TEL : 022-390-6840

仙台営業所 郡山オフィス
(福島エリア担当)
TEL : 024-927-0231